

# キャンプとクルマを語る キャンパー座談会

快晴の澄み渡る空が広がった、暖かい冬のとある休日、  
「キャンプが好き」という共通点を持つ男たちがフィールドに集結。  
互いのキャンプスタイルをリスペクトしながら、  
キャンプについて、SUBARU車について、語り合います。



どうして、こんなに  
キャンプが好きなのか？

安藤(以下A)「皆さん、ふだんはどんなキャンプスタイルなんですか？」  
相田(以下B)「僕は夫婦二人が多いです。ほぼ毎週末、キャンプしてます」  
大塚(以下O)「さすがキャンププロガー！」

R「いやいや(笑)。大塚さんは？もうエプロンをされていますが」

O「私にとってキャンプとは美味しいものを作って食べることで、エプロンするんです。泊まりがけのキャンプを始めたのは今年になってからですが凝り性なので、どっぷりハマっています」  
たけし(以下T)「ソロですか？」

O「二人より、家族や会社の仲間と一緒に賑やかなのが多いです」

A「僕もファミリーキャンパーです。子どもと一緒に水遊びしたり、焚き火したり、ラジコンしたり」

R「いいですね。僕がこんなにキャンプ好きなのも、子どもの頃、親と一緒に経験できたことが大きいか」

T「僕はソロです。友だちと行っても基本ソロ」

A「ソログルキャン(※)ですね」

T「自分のスペースを確保して、好みのギアを使いたいタイプで」

R「あ、それ、僕もです。キャンプをするために必要なギアを買い揃えるというより、ギアが好きだからキャンプをしているという感じ」

O「龍助さん、ブログでギアを紹介しておられますもんね」

R「そうですね。ギアといえば、僕はクルマもキャンプ・ギアのひとつと思っています」

O「おっ、それならSUBARUはご存じですか？」

R「フォレスターやレガシイを検討したことありますよ」

T「僕ももちろん知っています。キャンパーにも人気です。安藤さん、大塚さんのクルマはSUBARUですね」

R「よかつたら、SUBARU車のアウトドアで使えるところ、教えてもらえますか？」

O「いやあ、それは語ってしまうなあ。口へたなんです」

A「クルマ見ます？その前に、まずは乾杯しましょうか」

T「あ、よかつたら、寿司、食べませんか？」

O「寿司ですか？」

R「たけしさんは『寿司スタート』という活動をしているんですね？」

T「ほら、キャンプ場に着くと、小腹が空きませんか？」  
O「確かに、2時間くらいは移動にかかりますしね」

# 高性能、ユーティリティ、走破性、デザイン—— SUBARU車が アウトドアで 使いやすいワケとは？



**大塚達雄** 東京スバル大田店セールス  
大学では写真を専攻。卒業後、クルマを扱う道へ進む。道具マニアで、現在のお気に入りを持ち運べる薪ストーブ。  
愛車はレヴォーグ STI Sport EX

**キャンプたけし** キャンログ代表  
キャンプ好きが高じ、LINEのオープンチャット「キャンプ大好きオブチャ」、キャンプの記録を管理できる無料ツール「キャンログ」を運営。  
<https://camplog.in/takeshi>

**相田龍助** キャンプブロガー、ライター  
アウトドア志向の両親のもと0歳でキャンプデビュー。ブログやSNSでの情報発信のほか、キャンプ用品開発に携わっている。  
<https://ryucamp.com/>

**安藤亮司** 東京スバル小松川店セールス  
学生時代はバレーボール部に所属。スバリストだった父に影響を受け、東京スバルに入社。キャンプ歴は2020年から。  
愛車はフォレスター X-BREAK

T「小腹が空いたまま設営するより、途中のスーパードで寿司を買ってくればすぐつめる。『寿司からキャンプをスタート』という活動です(笑)」  
A「なるほど！それはよきぞつ」  
O「寿司ならお茶で乾杯しましょう」  
全員、マイカップにお茶を注ぎ、全員「乾杯！」

## 荷室の広いクルマは アウトドアで使いやすい

A「僕のクルマはフォレスターといいますが」  
T「キャンプ場でもよく見かけます」  
A「X-BREAKというモデルです」  
R「安藤さん、荷物が満載のようですね」  
……

A「自分で使っていて、使い心地のよさのひとつが積載量だと思うので、いつもキャンプで使う家族全員分の荷物を積んできました(と、リヤゲートを開く)」  
T「R」おお、広い！高い！」  
A「そうですね。広くて、高くて、荷室スペースが四角いから使いやすいです。僕はまず四角い荷物を積んで、隙間を丸くできるもので埋めていきます。」

家族四人がアウトドアで連泊するだけの荷物が、すっぽり収まります」  
T「これだけ積めるのは魅力ですが、運転席から後ろが見えづらいのでは見てみませんか」  
T「(運転席に座り)本当だ、はつきり見える！」  
A「スマートリヤビューミラー(※)といます」

R「めいっばい積んでも安心なわけだ」  
A「これのおかげで、めいっばい積めます」  
T「安藤さん。なんか、前の視界が広い気がします」  
A「SUBARU車はフロントのガラス面積が広く、運転姿勢のまま前方左右が広く見えるよう設計されているんです」

T「ごう、前かがみにならなくてもいい」  
A「クルマをスタートする前や走行中、人がいないか、まず安全確認をしますよね。その時の死角を減らせば、事故を減らせる。この視界の広さは、SUBARUが運転しやすいといわれる理由のひとつです。O次安全(※)といえます」

\*1 ソロキャンパーがグループになってキャンプするスタイル

\*2 フォレスターでは、X-TERRITON、X-EDITIONに標準装備。その他のグレードはメーカー装備オプション

T「O次安全。なるほど——これは何のボタンですか？」

A「X-MODEのスイッチですね。フォレスターは常に全輪駆動ですが、X-MODEをオンにしておけば、悪路に入ったら走破性が高まって、より強力になるというか。砂利道やアイスバーン、泥にハマりそうな道も、どんな行ける」

T「キャンプ場に行くにはいいですね」

A「僕はアイサイトが気になります」

R「僕はもう、アイサイトなしではキャンプ場に行けないくらいで」

T「R」えっ、それはどうして？」

A「アイサイトはステレオカメラで人の目と同じように前方を見て、ぶつからないように距離を測ったり、クルマや歩行者や白線を認識して、安全運転をサポートする機能です」

T「R」「むむむむ」

A「さらに、ツーリングアシストといって、前を走るクルマを認識し、追従して走るので、僕はハンドルに手を添えているだけなんです」

R「アクセルは？」

A「踏まなくていい」

T「R」「えええっ！」

A「高速道路で120km/hまで前のクルマに追従していきますが、僕の場合、スピードが出ている時よりも、渋滞時ですね。渋滞中の運転でアクセルブレーキ、アクセルという、ペダルの移動がない。足をペダルに乗せなくていいから運転が楽で」

T「R」「えええっ！」

A「キャンプの後、家族で風呂に入ると帰ると渋滞しているって、よくあるじゃないですか。でも、帰りの運転が疲れない」

T「前のクルマが車線変更したら？」

A「大丈夫です。また前にいるクルマをロックオンしますので」

R「すごい……」

A「アイサイトの追従機能には操舵制御もあり、ハンドルの細かい操舵の補正もやってくれます。『手を放していい』というのではありませんよ。あくまでも『支援』という役割で」

T「R」「すごいクルマだなあ」

O「いいクルマですよ、フォレスター」

R「あれ、大塚さん、どうしてたんですか」

O「いや、料理の準備が終わったんで参加しようかと」

A「そろそろ大塚さんのクルマを見ますか？」

T「R」「見たいです！」

## 安藤さんの フォレスター X-BREAK

マグネタイトグレー・メタリック



荷物を積み込む工夫を話す安藤さん。四角い物から入れ、丸められる物を間に挟むそう。荷室にコンセントがあり、夏場は冷蔵庫も積む。「フロアが傷つきにくい素材なので、重い物はひきずる感覚で出し入れできます」



前方左右が広く見える設計について伝える安藤さん。SUBARU車の視界の広さに相田さん、たけしさんも納得。



パワフルなターボ車の性能、SUBARUの水平対向エンジンについて説明する大塚さん。真剣な表情。



「数多くのボタンやスイッチがあっても、SUBARU車はクルマを動かすために必要なものは初めての乗車でもすぐに分かるように配置されている」と大塚さん。「シンプルな配置で分かりやすいです」と相田さん。

## 大塚さんの レヴォーグ STI Sport EX

WRブルーパール



ふだんはミラー、後ろが見えづらい時にスマートレビュー機能に切り替える使い方も伝授。六連星の木製オーナメントは安藤さんの友人によるハンドメイド。



SUBARUのSUV(レヴォーグ レイバックを除く)に備えられているX-MODEは、「キャンプ場へ向かう途中の未舗装道路やガタガタ道にいいですね」と、たけしさん。



シートは撥水ポリウレタン素材。安藤さんは、うっかり、コーヒーをこぼした時もすぐに拭いたらシミにならずに済んだそう。



大塚さんのキャンプギア(一人分)の多さに、キャンプギア保管用の部屋を一時借りていたたけしさんも驚く。「これだけ積んでも車高は下がらないですよ」と大塚さん。



大塚さんのキーを借りてポケットに入れ、ハンズフリーオープンパワーリヤゲートを試す相田さん。

## 行き帰りのドライブも 愉しみになるクルマ

R「フォレスターと全然違いますね」

O「レヴォーグSTI Sport EX」といって、ワゴンのスタイルでもスポーツカーくらいの走行性能があるんです。クルマ好きとしてはドライブも愉しみたいから」

T「見るからに走りそうだし、高速も楽そうですね」

O「すごく楽です。より高度なサポート機能がついているので」

A「レヴォーグにはアイサイトXがついているんですよ」

T「アイサイト——」

R「——エックス？」

O「はい。アイサイトXは、早い話が『高速道路スベシャル』といいますか」

T「R」「むむむ」

O「GPSや衛星「みちびき」(※3)からの情報、さらには3D高精度地図データを組み合わせて、高速道路のどの車線も走っているのかも把握するんです」

T「車線まで？」

O「アイサイトXで自車位置を把握しているの、私がこのキャンプに来るまでの高速道路上でアクセルを踏んだのは、右に出たかった1回だけです」

R「本当に?!」

O「あとはブレーキもアクセルも踏んでない」

T「R」「えええっ! すごくすごい——」

O「アイサイトXは『みちびき』の情報を用い、ルート先の何車線あるのか、どんなカーブなのか、上り坂や下り坂や分岐があるのか、すべて分かっている。ですから、高速道路を走行する時、運転操作に関しては、ほぼほぼ全部やってくれます。ただし、安藤さんも言いましたが、SUBARUはあくまでもレベル2(※2)という「ドライバーが責任で機械はサポートである」という考えでやっていますから、完全に手放しというのとは違います」

T「手はちゃんとハンドルに触れている」

O「そのとおりです。『シグニット』にある専用カメラがドライバーの目線状態をじつと見ているので、ちゃんと前を向いていないと警告されます。目が細くなると『眠いんですか』と言われます(※5)」

O「すごいクルマだなあ」

R「ギアの多いキャンパーとしては荷室も気になります」

\*3 準天頂衛星システム「みちびき」

\*4 自動運転システムが「前後」「左右」の監視や対応を行うが運転手はシステムを常に監督する必要があり、運転の主体は「人」であるという定義

\*5 ドライバーモニターシステム  
レヴォーグはSmart Edition EXを除く全車に標準装備



コーヒーを淹れたり、焼きリンゴを作ったり、ラジコンを組み立てたり、皆のために献身的に動き回る安藤さん。



皆で焼きマッシュマロにもトライ!



大塚さん作の鍋料理。豚肉、豆腐、きのこ、魚介、野菜といった具材をミルフィーユ状にして煮込んだもので、秋冬のキャンプにぴったりなぬくもりの一品。



フォレスターの後部シートに大人三人並んで座って、楽しいひととき。(大塚さんは料理中)

「クルマとキャンピングアのスタイルの相性も大事」という相田さんのギアとSUBARU車。この日の相田さんのギアはフェールラーベン「アビスドーム2」テント、カーミットチェア、ロードプロダクツ×ワンスロープロダクツのコラボ・テーブル、ダルトンのアルミコンテナ。三角のヨカティビテントは大塚さんのもの。

大塚さん手作りのホットサンドはハム4枚、チーズ4枚とボリュームたっぷり。ホットサンドメーカーは非売品。



料理中は寡黙でも、話題がクルマとなるとエプロンを脱ぎ、熱心に語る姿がカッコいい大塚さん。



容器から出して、友人からもらった寿司下駄に並べるのがたけしさん流。



O「リヤはこんなふうに開きます」  
 ビと鳴って、リヤゲートが開く」  
 T・R「お、おっー!」  
 T「今のどっつやっただんですか?」

O「キーはポケットなどに入れておき、六連星のエンブレムに体を近づけたら自動で開くんです」  
 R「これは便利ですね。キャンプでは両手がふさがっていることが多いから」  
 O「ビビという音は設定で消音もできます。夜間なんかにはキャンプ場で響いて、気になるといってを防げます」

A「レヴォークはカーゴフロアボードの下のサブトランク下が広いんです」  
 O「荷物、たくさん入ってるんですが、よかつたら見てください」  
 T・R「うわー、広い!」  
 O「この床下だけで70リッターくらいあるんです」  
 T「たくさん入りますね」

A「大塚さん、たくさん、何を入れているんですか」  
 O「緊急救援時に使うブースターケーブル、牽引ロープや簡易ジャッキもありですし、薪ストーブや調理器具も。以前、お店のノベルティで展開したホットサンドメーカーも持ってきたので、ホットサンドを作りますよ」  
 A「あ、そしたら、僕、コーヒー淹れれますよ」  
 T・R「じゃあ、僕たちで火をおこしますね」

一緒に食べて、遊んで、  
 いつまでも語らせる

皆で大塚さん手作りのホットサンドを食べながら、  
 T「大塚さん、おいしいです」  
 O「ふふ、病みつきになるでしょう」  
 R「安藤さん、コーヒー、豆から挽くんです」  
 A「ちょっとしたこだわりですが、挽きたてがおいしいですから」  
 R「それにしても、アイサイトという言葉は知っていたけれど、想像以上にSUBARU車は未来的でした」  
 O「どちらのクルマがいいとかありませんか?」

T「フォレスターかなあ」  
 O「やはり、キャンパーにはフォレスター、人気だなあ」  
 T「フォレスターのほうがアウトドア寄りなのではと感じました」  
 R「僕はレヴォークで高速道路を走ってみたいになりました」  
 O「あ、今度ぜひ一緒にドライブしてからキャンプしましょう」  
 R「ぜひお願いします!」  
 A「いろいろな装備についてお話ししましたし、他にも最新テクノロジーはあるのですが、僕が一番好きなのはフォレスターのデザインなんです」  
 T「ああ、なんか分かります。いい意味で無骨というか」  
 A「そうですね。シユツとしていない、ボンネットに厚みのある四角いデザインなんです」  
 O「技術はどんどん進化している。でも、フォレスターって、モデルチェンジしても、あまり前と変わっていないんですよ。なぜならば、お客様に提供したいことが昔も今も変わらないから。クルマは皆さんの家族と荷物を載せてレジャーに行くことを愉しむのに使われる物。乗り心地が悪い、思いどおりに動かないといった、レジャーに行くことを阻害する要因をひとつずつ削っていき、走ることを磨く、安全を磨く、快適性を磨くという、決してフシてはいけないところを貫いている。新しい技術は進化していく一方で、変わらないものがある。キャンプの世界にも、そういう部分がありますよね」  
 T・R「うんうん」  
 A「お客様からは「すぐ乗りやすいですね」という感想をよくいただきます」  
 T「シンプルで分かりやすいですね」  
 A「曲がりやすい所、思いどおりに曲がれる。視界が広くて運転しやすい。長距離乗っても疲れない。乗り心地のよさもSUBARUのアドバンテージです」  
 R「二度その乗り心地を味わうと、スバリストになつていくんですね」  
 T「スバリストのような言葉、他のクルマメーカーにはないですね」

O「確かに、乗り継いでくださるお客様が多いです。フォレスターとレヴォークで、SUBARUの中での走りの違いはあるんですよ。でも、SUBARUの乗り心地という「幹」のような、決して変わらないところに愛着を感じていただけるのだと思っています」  
 R「きょうはSUBARU車についてたくさん知ることができました」  
 T「そうですね」  
 A「あのう……」  
 R「安藤さん、どうしました、汗だくですが」  
 A「焼きリン」が出来上がりました」  
 O「R「焼きリン」! おいしそうですね!」  
 O「実は私、さきほど、鍋も仕込んでおいたんです」  
 A「R「おお!」  
 A「ラジコンも持ってきたんで、あとでやりましょう」  
 T「やつぱり、キャンプ、最高だなあ!」  
 R「もう一回、コーヒーで乾杯しません?」  
 O・A・T、うなずいて、マグカップを手にとり、  
 全員「乾杯!」

\*6 ハンスフリーオープンパワーリヤゲート機能